

とわいてい 埼玉



▲小学生以下の子ども達。
3時のおやつで牛乳が
支給される。



▲女生徒用寄宿舎

?何がニーズか? KUDSAMSIB SCHOOL クッドサムシブ スクール 30の穴のある学校の意



▲教室には電灯がないた
めか、各所に明かり取
りがある。



▲学校帰りの子ども達。
裸足の子もいるが表
情は明るい。

▶炊事場の女子中学生。
大事な水を出してく
れた。

◀学校への道はほとん
どが未舗装。



▲壁は採光のためか隙間だらけ。
この部屋に10人が生活している。



▲向かって左から筋野氏、西條
副会長、安江タイ新電元社長。

六月の総会には本事業の実施を提案致しますので、会員の皆様に十分な論議を尽くしていただきたいと存じます。そして五年という節目の年に、記念すべき足跡を残すことができますよう、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、設立当初より、目指してまいりました事業のひとつとして、学校施設の建設があります。タイでは都市と地方の教育格差が大きく、特にタイ北部の子供たちは、五年経った今も満足な教育が受けられない状況は変わっていません。そのため西條副会長が中心となり、本事業の実施に向けて情報収集や調査を進めてくださり、この三月には現地調査も終えております。私もその詳しい報告を受けました。調査地の劣悪な教育環境に大変驚きました。

埼玉・タイ王国友好協会が設立され五年が経過しました。この間の様々な活動が、文字通り草の根外交として根を張り、枝を広げておりますことは会長としてこの上ない喜びであります。役員の皆様方の労を厭わぬお骨折りと会員のみなさまのご理解ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。



会長
原 宏

設立五年に思う

―学校建設事業調査報告―

電気もない中で学ぶ子供たち



和正 会長
西條 副会長

学校建設事業について、三月六日から十一日までタイを訪問し、第一候補地となったタイ北部のメーホンソン県山中にある学校の実態調査を初め関係教育機関や建設関係者及び金融機関等を訪問し具体的な話をしてみました。同行者は当会事務局の吉田正広事務局長と筋野正美事務局員で、現地で安江和廣新電元タイ国(株)社長、佐藤満雄ランブーン新電元(株)社長、通訳としてスチャイ・ポンパピエン新電元タイ国(株)マネージャーが加わりました。関係の皆さんの協力を得て所期の目的を果たし帰国することができました。

運命的な出会い

訪問予定の学校があるのは、メーホンソン県のメーホンソン市より北に六十キロのパンマパーという小さな町である。私達はチェンマイで国内線に乗り継いでメーホンソン市へ、そこから車で目的地に向かう予定だったのだが、メーホンソン行きが欠航となってしまった。やむなく宿泊手続きをしていると背中越しに「西條さんですか」と声がかかった。見知らぬ紳士に不思議に思っていると「私はメーホンソンの教育長でゴーンソルといいます」と日本語で自己紹介をしてきた。彼はこの訪問についてタイ文部省や私が窓口にし

が多くなり、車はいろは坂のような曲がり路を一拳に高度を稼ぎながら走り、対向車もほとんどない。この国道はインパール作戦に敗れた日本兵の屍である。パイという町を過ぎて一時間、十二時二十分目的地のパンマパーに到着。

昼食後教育長夫妻と別れ、県が用意してくれた四駆者二台で現地に向かう。山道に入り、舗装が途切れるとまさにオフロードに近い赤土の凸凹路が続く。助手席に座していたが体が上下左右に振られシートベルトが体を締め付けてくる。シャッターも押せないほどだ。雨期はチェーンを巻いて走行するという。タイ軍の検問所を通り、午後二時到着。十八キロ一時間の「行軍」であった。

飲めなかつた水

学校の敷地は意外と広く、全面積は約二万平米もあるそうだ。幼稚園からM(モー)三(日本の中三)クラスまで一九七名が十三名の教師と学んでいて、家が遠い六七名は寄宿舎に入っていた。



▲教室を背景に教員達と

ところ、彼女が情熱と共に経営感覚も持っているのです。その期待に応えたいと、選んだとの答えが返ってきた。

相当以前に建てられたと思われるメインの校舎に三教室と図書室が、校庭入り口横には比較的しっかりとした幼稚園舎があり、薄暗い教室で十五人程の幼児が車座に座りパックの牛乳を飲んでいました。後で聞いたことによると、タイでは数年前にM三までが義務教育になり、政府からすべての学校に補助金が出るそうだが、それが丁度牛乳一本分の値段で、学校へ来ればただで飲めると、遠くからも通って来るようだ。

この後女性の校長先生を紹介された。彼女は三五歳独身で、この山奥の学校を少しでも改善することに大きな情熱を持っていることが強く感じられた。後に教育長に九校の候補リストからここを選んだ理由を質問したところ、彼女が情熱と共に経営感覚も持っているのです。その期待に応えたいと、選んだとの答えが返ってきた。

彼女の案内で、竹網の古びた教室や日本では掘立て小屋のような粗末な寄宿舎を見て回った。この辺りは高度八百Mを越えている筈で、最低気温は三〇四度になると思われ、このような素通しの部屋でどのように生活しているのか心配になった。幾つかの教室は授業中で、我々が参観しても、薄暗い中振向きもせず懸命に勉強している。電気は太陽光発電で教師用パソコンと食堂に利用されていて、教室にはほとんどなかった。途中可愛い中学生がグラスに水を持ってきてくれた。この水は四ヶ月位前に降った雨水で、貴重な水でもてなしてくれたわけであるが、どうしても喉を通らない。一方この親切な行為を無視することもできず一口だけ喉を通し、水を残したままグラスを返した。その後校長先生と数人の先生とのミーティング「寄宿舎が欲しい」という答えを得た。この視察から感じたことは、我々が支援する素材は幾らでもあるということである。この協会の設立理念である「草の根外交」促進に繋がることであり、何としても期待に応えてやりたいという思いが心に強く広がった。

調査を終えて

十七年に亘りこのタイ国を見つめてきたが、今回これほど大きなカルチャーショックというかインパクトを感じたことはなかった。タイ国が九十年前後の工業化による高度経済成長のもと、大きく国の様相が変化し、あらゆるところで変化の足跡を感じてきたが、今回の調査訪問において全く異質のタイの国を見る事ができた。そして都市との格差の大きさを改めて認識することとなり、大変な勉強になったことは私のタイ観、世界観を見直すほどその意義は大きかったといえる。同行の吉田氏が「渋谷で夜遅くまで遊び呆けている日本の女子高生に見せてやりたいよ」と呟いた言葉が印象に残り、平和ボケをしているところもある我々日本人に対する警告でもあるのではないだろうか。最後に、今回の調査を通じて

- ① タイ側の希望・期待が合致する
- ② 王室プロジェクトを侵食しない
- ③ 本協会の自主性が保たれる
- ④ 信頼できるパートナーが確保できそうである
- ⑤ 建設に対しての施工及び管理にも責任者がはっきりし寄宿舎としての姿が見える
- ⑥ 送金方法も問題がない

ことが明確になった。今後、協会内での議論をお願いしたい。

タイガールガイド来日

埼玉県ガールスカウト連盟との交流で



▲工場見学で説明を受ける一行

ガールスカウト連盟埼玉支部との交流事業でタイ・ガールガイド連盟の皆さん三九人が来日し、四月十四日から七日間、滞在しました。同連盟とは地域開発事業の支援を通じて交流があり、十五日、事務局が置かれている川越の武州ガス(株)本社を訪れました。

一行はまず吉見町にある「カ・コ・ライーストジャパンプロダクツ(株)の工場見学をし、その後本社を訪れました。同社に着いた一行は社員の拍手の中、当協会の幹事でもある笠井元同連盟支部長の案内で会議室に入り、



▲記念品を受ける原武州ガス(株)社長

原武州ガス(株)社長や西條副会長等に迎えられました。歓迎会では英語やタイ語の混じった挨拶、記念品の交換などが行われた後和食の昼食を取りながら歓談の時を過ごしました。その後同社の英語ガイドのビデオを見るなどして川越を後にしました。



▲武州ガス(株)本社前で記念撮影

大学事 ラ大行 ユ玉流 チ埼交

所沢の東部クリーンセンターなどを見学

三月十八日、当友好協会の支援事業の一つである埼玉大学経済学部とチユラロンコン大学の交流行事があり、所沢市の東部クリーンセンターと川越市内見学に、事務局スタッフが同行しました



▲カンの分別作業を見る一行

午前十時、東部クリーンセンターに到着した一行十五人はまず会議室で英語版ビデオによる施設の概要説明を受けた後、所員の案内で施設を見学して回りました。

同センターは国内でも最大、最新の施設のため、一行は規模の大きさやハイテクぶりに驚いた様子で、特に建設費用の出所はどこかなど盛んに質問していました。また「環境にいいやり方だ」「クリーンなところが素晴らしい」「タイでも分別が話題となっているが、実行されていないので、帰ったらこのリサイクルの様子を周囲の人達に話したい」などの感想も聞かれました。



▲身を乗り出して春日局の説明を聞く

その後川越のタイ料理の店「ラ・ンマイ」で昼食を取った後、川越シルバー人材センターのガイドの案内で、喜多院、時の鐘の見学、菓子屋横丁の散策を楽しみました。



▲武州ガス(株)社長を囲んで

タイにアクセス

会員 VOICE

「タイめしを 食べに行こう」

越谷市 吉野寛治さん



この3月「タイめしを食べに行こう」と家族でタイ旅行を計画したのですが、鳥インフルエンザの問題で旅行前日に断念。2度とない機会だったので本当に残念でした。私とタイとの付き合いは長いのですが、ビジネスの話だけで、地域の事情なども知ることなく過ぎて来ました。その私が家族にぜひタイを見せたいというまでになったのは、この会に入ってタイの普通の人たちと交流し、国柄や人柄の良さに触れたおかげです。また総会や親善旅行などで一緒に過ごす皆さんと様々な話ができることもとても楽しくありがたいことですね。私は法人会員の立場ですが、これからも個人として皆さんとお付き合いしていきたいと思っています。

25歳の「ダルニーちゃん」来日



▲日本民際交流センターパンフの「ダルニーちゃん」



▲中島事務局長と西條副会長

当協会では毎年10人の子どもにダルニー奨学金を授与していますが、その名称の由来となったダルニーさんが1月28日来日しました。2月5日、日本民際交流センターで行われた報告会では、自分がこの奨学金でいかに恩恵を受けたかを涙を交えて語り、またタイの教育事情は今も奨学金を必要としているとして、貧しい子供たちへの教育支援を訴えていました。

現在25歳になり、同センター・タイ事務局で働いていますが、将来は生まれた村に戻り、村のための仕事をしたいそうです。同センターのHPに詳しい報告が載っています。

タイアラカルト

タイランド・アカ族、ラフ族の郷 森武司 写真展

VOL.10

「山河を越えて」

- 2004年5月1日(土)～11日(火)
AM10:30～PM7:00(最終日はPM3:00まで)
- 入場無料
- コニカミノルタプラザギャラリーA
新宿高野ビル4F
(JR新宿東口駅前 ☎03-3225-5001)

作者はさいたま市生まれで10数年前、観光で訪れたチェンマイ大学山岳民族研究所で、展示されていた生活用品や農具などが、かつての日本で見られたものに酷似していることに驚き、以来アカ族、ラフ族の居住地を30数回訪れ、通算滞在期間約2年に及ぶ取材を行ってきた方です。

展示作品はカラー全紙、全倍約40点。ぜひお立ち寄りください。



新年を祝う伝統行事 タイ大使館庭で水かけまつり

▶カシットピロムタイ駐日大使



タイではソクラーン（水掛けまつり）は、新年を祝う重要な伝統行事の一つです。人々は実家に里帰りし、尊敬の意を込めて両親、祖父母の両手に水を丁寧に注ぎ、贈り物をします。通りに出ている人も水を掛けられますが真夏のため気持ちよく、楽しい雰囲気の中で行われます。

近年はバケツや水鉄砲などで水を掛け合うなど娯楽性も高まっています。

4月10日、東京目黒にあるタイ大使館庭で、このソクラーン祭りが行われました。参加者は庭に置かれたタイの仏像に水をかけた後、タイ料理を味わったり、タイの音楽や舞踊を楽しみました。



●世界の狭さを感じました。チェンマイからバンコクの飛行機の中でタイ人から日本語で話しかけられました。マイत्री先生を存じている方です。(S)

●メーホーソンに行き、環境問題の大切さを実感しました。至る所で焼畑が行われており、地球環境は世界的視野で守りましょう。(Y)

編集後記

バンコクのUIエレクトロニクス
タイランド内
☎662-712-7290

タイ事務局連絡先

会員募集中

埼玉・タイ王国友好協会では、多くの県民の皆様からタイ王国を理解していただき、友好活動を積極的に進めていくために会員を募集しています。

年会費 法人会員 2万円
個人会員 2千円

申し込み 埼玉・タイ王国友好協会事務局
問い合わせ TEL:049-247-5428 FAX:049-246-2118

(武州ガス内)